

インプラント治療における 外科的・補綴的戦略

～審美性・機能性・永続性を目指して～

講師：瀧野 裕行先生

日時：平成29年2月26日(日)

場所：秋葉原UDXギャラリーネクスト



福西 雅史
(神奈川県)

藤田 陽一
(神奈川県)



CISJの外部講師を招いての各研修会では、私たちは、その講師の得意分野について、数多くのことを学ぶことができる。今回、審美歯周形成外科の分野において、大変高名な瀧野裕行先生より、特に審美領域におけるインプラント治療について、審美性・機能性・長期安定性を達成するためのポイントを学んだ。

(1) 歯肉のバイオタイプを理解する

前歯部は歯槽骨が薄く、特に抜歯後の歯槽堤の吸収が大きいため、歯槽骨・硬組織の増大は勿論のこと、特に角化歯肉・軟組織の改善・増大が必要である。すなわち、歯肉のバイオタイプを、Maynardの分類のType4からType3へ改善するため、CTG・結

合組織の移植が必要な場合がある。バイオタイプを改善することにより、長期に渡り歯肉退縮を防ぎ、周囲組織の維持安定を期待できる。

(2) The Pink Esthetics・歯肉の審美を考慮する

審美的な結果を得るためには、隣在歯との調和を図り、左右対称性・適切な歯頸ライン・歯肉の豊隆・歯間乳頭の高さなどを考慮する必要がある。術前の診査診断において、硬軟組織の適正な評価を行い、矯正・外科的・補綴的戦略を軸に、包括的な視点で治療計画を組み立てる必要がある。

(3) 矯正戦略を取り入れる

治療前のフレアアウトや叢生などを改善し、歯周

レベルの維持を図り、特に上顎前歯部の場合、下顎前歯部の歯列不正により、対合関係や補綴物の長期安定性に不安が残るため、矯正治療も取り入れることが重要である。

(4) 抜歯窩の分類により治療計画を考える

瀧野先生は隣在歯に骨欠損が及んだ場合を含む抜歯窩を、硬・軟組織の状態によって4つのクラスに分類して、予知性の高いインプラント治療を確実に行うためインプラントの埋入時期・外科的アプローチ・治療オプションを検討してくことを提唱している。(Quintessence Dent Implantol 2012;19(4),527-544.)

- ①抜歯後の埋入時期(即時埋入、早期埋入、遅延埋入)
- ②外科的アプローチ(フラップレス、フラップ、インプラント GBR 同時埋入、インプラント GBR 待時埋入)
- ③治療オプション(歯槽堤保存術、上皮下結合組織移植(SCTG)、遊離歯肉移植(FGG)、乳頭再建術、口腔前堤拡張術、骨補填材料の填入、自家骨(細片骨、ブロック骨)の移植・当該歯の挺出)、隣在歯の歯周再生療法、インプラント埋入同時プロビジョナルレストレーション、カスタムテンポラリーヒーリングアバットメント(CTHA)など)

(5) CTによる3Dシミュレーションを行いガイドドサージェリーを用いる

審美領域のインプラント治療においては適正な埋入ポジションが重要であり、早期埋入や遅延埋入においてもフラップレス埋入が可能になる。またCTにより、顎関節・顎頭位の状態の診断も可能になる。

(6) セファロ分析を活用する

セファロX線を用いることによって、骨格・咬合高径・咬合平面等の分析が可能になる。

また、国内海外講演など豊富な経験を持つ瀧野先生より、プレゼンを成功させる秘訣を学ばせて頂いた。

- ①単純明快(Simple) ②意外性(Unexpected) ③

具体的(Concrete) ④信頼性(Credible) ⑤感情に訴える(Emotional) ⑥物語性がある(Story) ⑦空気を読む(Situation)

今回の瀧野先生の講演において、豊富な症例を動画を供覧させて頂くことによって、大変理解しやすく学ぶことができた。特に前歯部審美領域の治療に関連する、CTGなどの審美歯周外科の大変繊細な技術についても、あたかも自分が行っても成功するような感覚を持つことができた。

最後に、瀧野先生においても、過去に困難や壁にぶつかることがあったと言う。その具体的な壁は、

- ①スタッフとの壁②患者さんとの壁③自分自身の壁④経営の壁⑤100年に1度の不況の壁——であり、『目の前に立ち塞がる壁は必ず乗り越えることができる。なぜなら乗り越える能力のない人間にその壁は現れないから』という大変ありがたい教訓を頂いた。そして、『知識なき実践は暴力である。実践なき知識は無力である』という教訓も、私の胸に響いた。

そしてこれからも勉強を続け、経験を積むためのヒントも頂いた。

- ・信頼できるMentorをつくる・スタディーグループに所属して学ぶ・謙虚で素直な気持ちを忘れない・運のいい人につく・5年後、10年後、20年後のビジョンを持つ・自分の仕事にやりがいと誇りを持つ

私も今回も瀧野先生より学んだ大変多くのことを、自分の糧として、謙虚で素直に勉強して研修を行い、少しずつ着実に経験を積んでいきたいと考えている。

福西 雅史

第4回 特別研修会



平成29年 2月26日(日)秋葉原UDXギャラリーネクストにおいて、京都市開業 JIADS副理事長 OJ副会長の瀧野裕行先生による、特別研修会が行われました。

田中譲治会長の挨拶後、岩野義弘先生の司会で定刻通りの開始の運びとなりました。

近年、インプラントの認知度向上にともない患者の治療に対する要求度も高くなる一方です。

特に前歯部審美領域の軟組織も含めての審美性、さらにはその永続性には十分な量の角化歯肉が必要と考えられています。

午前中はメイナードの分類をもとに前歯1本欠損の症例を、難易度の低い順にClass1～Class3を瀧野先生の過去の症例をもとに詳細にレクチャーしていただきました。そして午後は欠損が両隣在歯、歯根に及ぶ難易度の高いClass4をいかに硬組織・軟組織を回復させつつ、審美性の高い結果をいかに出すかという症例を多くみせていただきました。

今の自分の実力からすると、それはまるで魔法の如く、カボチャが馬車に変わるが如くです。

そしてそのテクニックを微に入り細に入り懇切丁寧に教えていただけたので、まるで自分も明日から……。

現実はまだまだ自分の場合、基本から勉強する必要があります。

『向上心があれば5年毎に、自分自身の技術は大き

く変わる』

瀧野先生の有り難いお言葉です。

是非5年後には自分も瀧野先生に少しでも近づければと思います。

「骨は裏切るが結合組織は裏切らない」

「一流の歯科医師は、大統領のように仕事をして王様のように遊ぶ」

たくさんの名言を教えてくださいました

骨補填剤を多く使用する部位には、硬めで吸収のやや遅い吸収性コラーゲンメンブレンである「オーシックス」を使用すると上手くいきやすいこと、歯周組織再生剤のエムドゲインに代わる「リグロス」が、今春より発売予定保険適応の方向という事など、多くの耳寄りな情報をいただきました。

そして懇親会では王様のように遊ぶ瀧野先生の具体的な症例の動画をみせていただき、参加のCISJメンバー、瀧野先生の超大物ぶりを、再確認させていただいた次第です。

藤田 陽一

